

福島県沖でカナガシラが増えています

令和4年1月28日

水産海洋研究センター海洋漁業部

カナガシラ（学名）は北海道から九州南岸の太平洋・東シナ海・日本海沿岸および朝鮮半島・中国沿岸まで広く分布するとされています¹⁾。カナガシラは漢字で「金頭」と書き、その由来は金属のように固い頭部からきているとも言われています。



図1 底びき網で漁獲されたカナガシラ

カナガシラは、福島県では主に底びき網漁業によって漁獲され、令和3年の漁獲量は86トンでした（図2）。震災前年（平成22年）の漁獲量は48トンで、令和3年の漁獲量は震災前年の1.7倍でしたが、震災前と比較して平均単価が大きく下落しています。

これまで、福島県が所有する調査指導船「いわき丸」および水産研究・教育機構から貸与された「こたか丸」により着底トロール調査を実施しており、調査結果から各魚種の分布密度（1 km²にどの程度魚が分

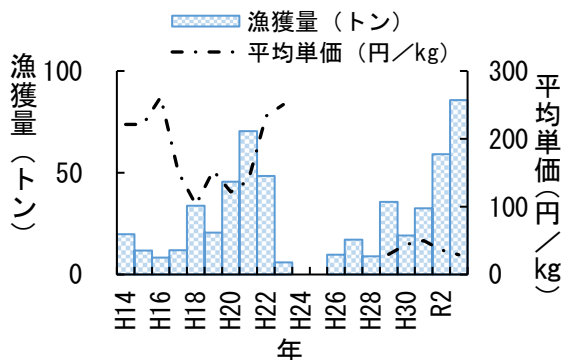


図2 カナガシラの漁獲量・平均単価

布しているか) を算出しています。カナガシラは、震災後分布密度が増加している魚種で、震災前年(平成22年)の分布密度が16.5kg/km²であるのに対し、令和2年の調査結果は210.8kg/km²と震災前年の10倍以上となっています（図3）。当センターではカナガシラを含む底魚類の資源状況を把握するため、調査を継続していきます。

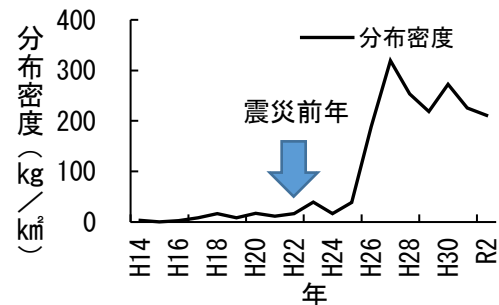


図3 調査船調査でのカナガシラの分布密度

カナガシラは大きな頭と堅い骨が特徴の魚で、歩留まりが悪く加工に手間がかかるため、産地市場では比較的安価で取り扱いされる魚種です。

「水産物の高付加価値化研究コンソーシアム^{*}」では、カナガシラの有効利用に向けて3Dフードプリンタ用カートリッジ等の新たな加工技術の開発に取り組み、技術マニュアルを作成しました（農林水産省「食料生産地域再生のための先端技術展開事業（JPJ000418）」）。

^{*} 国立研究開発法人水産研究・教育機構、福島県漁業協同組合連合会、福島県水産海洋研究センター等で構成する共同研究機関

【参考文献】

1) 中坊徹次.2013 日本産魚類検索 全種の同定 第二版 p726